

君の「秘密基地」はどこにある？

幼い頃、実家の裏に空き地がありました。近所の子どもたちにとって格好の遊び場でした。敷地の片隅に古びた木造の物置小屋があって、我々自称少年ギャング団は、その中に、筵(むしろ)や家で使わなくなった布団や家財などを持ち込んで、『秘密基地』に見立てて遊んだものです。わくわくドキドキ楽しかった思い出がいっぱいっばいつまっています。

映画「スタンド・バイ・ミー」、小説「トム・ソーヤの冒険」、マンガ「20世紀少年」などでも、『秘密基地』は重要なキーワードや舞台として物語の大きな要素となっています。

さて、昨年、たまたまテレビをつけたら、NHKの「チョコちゃんに叱られる!」という番組で「なぜ子どもたちは『秘密基地』を作りたがる?」という内容を扱っていて、とても興味深く視聴しました。

子どもたちが『秘密基地』を作るには、それなりの理由があるとのことで、ある大学の先生がその理由を解説していました。その内容は以下の通りです。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

我々人間も含めた動物は、自らの命を守る行動として本能的に3つのパターンを身に付けている。それは、「戦う」「逃げる」「隠れる」である。

その中の「隠れる」という本能が、『秘密基地』を作りたがる行動に駆り立てる。どうやら、生き延びるために、危険に対して準備をしておかないと気が済まない本能が働くらしい。つまり、子どもが『秘密基地』を作りたがるのは、無意識に命を守る行動をしている。自分たちが設定した世界で大人に見つからない練習をしている。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

とのことでした。

さて、それでは、巷に自由に立ち入ることのできる空き地や廃屋がなくなり、集団で外で遊ぶ機会のめっきり減少した現代の子どもたちにとって、『秘密基地』なんてあるのだろうかとおもって考えました。

そうだ、それはネット空間ではないだろうか、との思いに至ったのです。

『秘密基地』とは、親や他人に知られたくない自分たちだけの場所や空間であり、そういった意味では、昔と比べることができないほどセキュリティが働いているのも、ネット空間ならではのものかもしれません。

そして、『秘密基地』が、自らの命を守る行動であるならば、子どもたちがネット社会に夢中になることを、我々大人が、嫌悪したり全否定したりすることは、もちろん間違っているのではないだろうか。

一方、リアルな『秘密基地』は、秘密といっても、親や大人はその存在やそこで何が行われているかも薄々わかった上で、容認し許容し秘密のふりをしていました。例えば、家の中での、押し入れや炬燵の中もれつきとした『秘密基地』だと言えますが、幼い子に「あれ、〇〇ちゃんがない。どうしたんだろう？」なんてわざとお母さんが本人に聞こえるように言って、身を隠していたつもりの本人が出てきて、母親が大げさに驚いたりしてあげると本人が大喜びするのは今でも見られる光景でしょう。

このように、もちろん実質は決して秘密ではありません。我々の幼少時代も、親に内緒のつもりで、『秘密基地』でそれなりにいろいろな遊びや悪ふざけや、いたずらの相談事や、ちょっとした秘め事をしてきたかもしれませんが、その実、親たちは、ある程度のことは把握していたのだと思います。

ところが、ネット空間はやっかいです。子どもが、どこのだれとどんな会話ややり取りをしているかまでの詳細や全容はもちろん把握できません。自分の子どもを取り巻く『秘密基地』の広さや、そこで結びつく人間関係の実態や雰囲気もわかってないはず。本当の秘密の場所に陥りやすいのです。

そして何より心配されるのは、子ども自身はそこを『秘密基地』と思っているかもしれませんが、結局は、容易に第三者に見つかってしまう可能性もある頼りにならない『秘密基地』であり、いつで

も危険にさらされる可能性をも秘めている危険な『秘密基地』だということです。

いよいよ明日から夏休みです。先日 19 日に全校で「SNS 学習会」を実施しました。新津第二中学校のスマホ・SNS の使用状況についての現状を確認し、スマホ・SNS に潜む危険性について実例をもとに指導しました。その後、各クラスでグループワークを行い、特に夏休みに注意しなければならないことを自分たちで考える機会をもちました。

このように、様々な機会を通して、情報モラルに関する教育活動や指導を今後も繰り返していきたいと思えます。これらの学習や啓発の手段や機会を決して無駄にせず、ぜひ、保護者の方にも情報モラルに関する家庭での見取りと働きかけを切に願います。

それは、現代の子どもの『秘密基地』であるネット社会を、リアルな『秘密基地』同様、大人や親の手のひらの上で踊っている存在にするためなのです。

自分の身は自分で守るのは子どもとしての本能かもしれませんが、親や教師には、自分にとって大切な子どもたちをしっかりと守ってあげて、本人が傷ついたり他の人間に決して迷惑をかけないように、子どもを正しく導く大人としての重要な責務があります。よろしくお願ひします。

「ボーっと生きてんじゃねーよ！」とチョコちゃんに叱られることが決してないように。